

目的・方法 1. 現代の家庭における人間関係の変化について考え、集団・家族のかわりを通して人間形成のあり方を探究する。2. 人間形成・家族関係の観点から、家庭科教育の意義に着目し、①家庭における技術とのかかわり方、②親子・家族のかわり方の側面から、そのあり方を探究する。3. 家族関係の動的な実践研究の方法として、心理劇の活用のかたの可能性をさぐる。

結果・考察 心理劇の実践例 A: 母子関係のかかわり方を軸とする『食事場面』の心理劇—食事中、2オの子は、御飯をスプーンでぐちゃぐちゃこねまわし遊びはじめたところで母親の3つのかかわり方で登場する①「どうしたの?」と聞きながら、その行為が悪いことだと教える。②スプーンを持つ手をたたき、悪い行為だと教える。③「何をしているの?」と話しかけ、一緒に遊ばせ遊ぶ。B: 父母子の関係における『アルバイト』の心理劇—女子高校生がアルバイトをしたいと家族に相談する場面。①父親は強く反対し、母親はどちらとも決めず、オロオロする。②父親は賛成するが、母親は心配する。③両親は反対し緊張関係になった頃、隣人の登場がある。—劇後、参加者の感想を手がかりとして、それぞれの特徴・問題点を明らかにする。心理劇を通して人と人とのかわりは、日常一面的にかかわることによって流されていく。しかし、家族員・そのまわりにいる人のかかわり方は、ダイナミックに変化する。かわりの可能性を開拓することによって、その他の視点から解決する糸口を見出せる。家族関係を動的にとらえることは、人間形成の一助となるのではないだろうか。